



みんなの回生

題字揮毫
元県知事・前川忠夫



- 新年のご挨拶 理事長・病院長・副院長兼看護部長 …………… 2～3
- CT検査とMRI検査について …………… 4～5
- 集中ケア認定看護師の資格を取得して …………… 6
糖尿病看護認定看護師の資格を取得して
- 皆さまからのご意見の紹介 …………… 7
～新しいシステム導入に関するご意見～
- トリアージ研修とロジスティクス研修を開催 …………… 8

回生病院理念

皆さまに愛され信頼される病院を目指します

回生病院基本方針

- 一、私たちは質の高い医療を提供します
- 一、私たちは保健・医療・福祉と連携を図ります
- 一、私たちは予防医療の充実に努めます

患者さまの権利と責務

- 一、患者さまには、最善で公平な医療を受ける権利があります
- 一、患者さまには、医療内容について十分な説明と情報を受ける権利があります
- 一、患者さまには、医療行為について選択・同意・拒否する権利があります
- 一、患者さまには、個人情報を保護される権利があります
- 一、患者さまには、自らの健康に関する情報を提供する責務があります
- 一、患者さまには、病院の規則を守る責務があります

2020年
292号



社会医療法人財団 大樹会 総合病院 回生病院
坂出市室町三丁目5番28号
回生病院ホームページ <http://www.kaisei.or.jp/>

☎ 0877 (46) 1011 (代)
夜間の受付も行っています。

新年のご挨拶

理事長 松浦 一平



新年明けましておめでとうございます。旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。

昨年は令和という新たな元号がはじまり、気持ち新たに新生活を迎えられた方も多いと思います。また、今年は56年ぶりに夏季オリンピックが日本で開催されることもあり、この大規模国際イベントに日本全体の再生・活性化が期待されます。昨年も様々な出来事がありました。台風や大雨などの災害による被害が、年々大きくなっていくように思えてなりません。特に首都圏を直撃した台風15号や関東から東北にかけて大雨を降らせた台風19号による被害をニュースで見ても、多くの方が衝撃を受けたのではないかと思っています。温暖化が原因であると言われてはいますが、今年は昨年以上の災害が起きるのではないかと心配しています。暗い話題ばかりではなく、日本を感動の渦に巻き込んだ4年に一度のラグビーワールドカップの日本開催は、国民にとって大変面白い話題となりました。この大会でワールドカップ初となるベスト8入りを果たした日本チームの活躍に、日本中が多くの感動と勇気をもたらしたことでしよう。

医療に関する話題としては、今年は2年に一度の診療報酬改定の年です。政府は昨年10月に消費増税を行ったにも関わらず、社会保障費削減の方針は固く、今回の改定により多くの医療機関の経営に影響を及ぼすと推測されます。

令和という新たな時代がはじまり、病院経営を取り巻く環境はより厳しくなると思われませんが、引き続き質の高い医療を地域住民の方々に提供すると同時に、行政や介護との連携をこれまで以上に密にしていきたいと考えています。また地域の中核病院をはじめ、診療所の先生（かかりつけ医）や施設関係者の方々とより密接な連携をとり、患者さんをはじめ地域の住民の皆さんが、住み慣れた地域で安全・安心して暮らせる地域作りに全力を注いでまいります。今後とも何卒よろしくお願い致します。

新年のご挨拶

病院長 杵川 文彦



新年明けましておめでとうございます。昨年中、当院に賜りました数々の温かいご支援に対しまして、職員一同心より御礼申し上げます。さて、長く続いてきた平成も昨年5月に令和と改元され、今年はいよいよ元号で初めての正月となりました。今までは元号に1度も使われていなかった「令」の字にも漸くなじんできたところですが、

平成16年に始まった現在の医師臨床研修制度の影響による若手医師の偏在と勤務医の高齢化が改善されないまま、新専門医制度が導入され、依然として混乱が続いているところですが、昨年は何と香川県が医師多数県であると厚生労働省から報告されました。それだけでなく、厚生労働省は地域の特性を全く考慮せず、医師数が多いとされる診療科の専門医研修者の数を全国一律に制限するという暴挙に出ています。香川県でも整形外科と小児科が多数であるとされ、専門医研修者の人数制限が行われています。これは人口10万人当たりの医師数から単純に計算しただけの値で、医師の高齢化や勤務医数の多寡を全く考慮しないではじき出したものではないかと懸念しています。この措置は地域医療の崩壊につながるものであり、納得のできるものではないとして県から厚生労働省に働きかけが行われています。この人数制限は初期研修医だけでなく医学部在学生の心理にも影響を与えており、人数制限のかかった地域へは他都道府県からの初期研修希望者が激減するという事態を招いています。地方の病院にとっては引き続き苦悩の日々が続いています。逆風の中ではありますが、若手医師の確保を図り、地域医療を崩壊させないよう努力して参りたいと考えています。

そのような中でも昨年は電子カルテが更新され、効率の良い診療が可能となりました。外来診療においては、人の声で行っていた呼び込みを番号表示で行うようになりました。これは呼び出し間違い、聞き間違い、順番のお問い合わせ、患者さんご不在時のイレギュラー対応の減少などを目的としたもので、慣れない間は不都合もあるかと存じますが、以前よりも円滑な外来診療が行えるものと考えています。入院外来を問わず、日常の診療につきましても今以上に充実させていく所存です。ヘリポートを有する災害拠点病院としての機能も引き続き維持していきたいと考えています。

本年も昨年同様、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。年頭にあたり、皆様のご健勝とご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

副院長兼看護部長 池内 真理子



新年明けましておめでとうございます。皆さまにとつて、新しい年が良い年となりますように心よりお祈り申しあげます。

平成から令和に変わり2年目の年が幕開けとなりました。また今年度は、東京オリンピックの開催予定でもあります。昨年のNHK大河ドラマのいだてんの中で、東洋の魔女といわれた大松監督の女子バレーボールの場面を、少し見ることがありました。それを見て、大松監督の出身地であり、私の住む町に帰郷されたときに話された、有名な言葉「なせば成る」を思い出し、看護の道への意志を固めた自分自身の人生を振り返る機会にもなりました。

安倍首相は「平成の時代のヒット曲に『世界に一つだけの花』という歌があったが、次の時代を担う若者たちが明日への希望とともにそれぞれの花を大きく咲かせることができる希望に満ちあふれた日本を作り上げていきたい」と話されました。

人生100年時代構想会議で2007年に生まれた子供の半数が107歳以上生きるといわれているそうです。これからは、全世代が働き、学び、遊び、生き生きといけるよう人生設計が必要となってくる時代の到来だといわれています。

日本看護協会では、「ヘルシーワークプレイス（健康で安全な職場）」をテーマに基本的人権を尊重する職場を提案しています。看護職が職場だけでなく、地域やその住民、患者さんも互いの人権を尊重しあうことを大事に考えています。

ヘルシーワークプレイスは、次の3点で定義されています。

- ① 一人ひとりが健康で安全に自分らしく働きながら自己実現し
ていくことができる職場環境・風土
- ② 組織が職員を業務上の危険から守り、一人ひとりの健康支援
に取り組む職場・風土
- ③ 職員と組織の活力を生み出すことで、患者（利用者）へのケ
アの質を向上し、社会への貢献を目指す職場

看護職はもちろん、看護の対象に質の高いケアを提供します。それと同時に、健全で安全な職場に価値があると考える職能団体です。

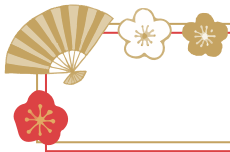
看護職一人ひとりの労働安全だけでなく仕事に対する姿勢が変わっていき、看護職が自分らしく働くことを考えそして自己実現を考えて仕事に向き合えることで、働く意味を見いだして生き生きと働くことができます。

地域包括ケア時代における多職種協働とは、多職種の力を引き出し、院内外のチーム医療を構築できる人材が求められています。日本看護協会の委託事業として2017年度の「都道府県看護協会地区支部等における高齢者および認知症患者支援事業モデル事業」に香川県第4支部として参加、地域の看護管理者および看護職、多職種の連携に繋がりました。4年目に入り、支部地域内のネットワークの拡大と連携の基盤作りを更に推進する必要があります。また自院における看護力および地域の看護力、看護連携強化から看護の質のレベルアップへと活動展開していきたいと思います。

看護部理念「信頼していただける最良の看護を提供します」、この原点に戻り看護部一致団結で2020年も全力を注ぎ前進していきたいと考えております。本年も皆さまの温かいご支援とご指導を何卒よろしくお願い申し上げます。



2020
令和2年



CT検査とMRI検査について

副院長 放射線科 長尾 修自

ご存じの方も多いとは思いますが、我が国は人口一人当たりのCTとMRIの台数が共に世界で最も多い国です。さらに国民皆保険制度のおかげで、最も費用の安い国の一つでもあります。言い換えれば世界で最もCTとMRI検査を受けやすい国であるといえます。

当院にも、CTとMRIはともに2台ずつあり、当日中に検査を受け、結果を聞くことも可能です。これは他の国と比較すると、非常に幸せなことであり、我が国の医療水準の高さをもたらしている要因の一つです。

これから本題に入りますが、次ページの写真のようにCTとMRIの外観はよく似ており、どちらも大きな筒の中に寝た状態に入る検査方法です。また、得られる画像もどちらも断層像で類似しています。しかし、撮影原理は全く違い、それぞれ長所短所があります。主な特徴を表にまとめました。

	CT	MRI
撮影原理	体にX線を当て透過率の差を利用して画像にする	磁石の中で電波を当て体内の水素原子の動きを画像にする
検査時間	一回あたりは数秒 全体でも5分程度と短い	一回あたり数分 全体では30分程度でやや長い
検査中の音	静か	何かを叩き続けているような大きな音が続く
検査の範囲	一回の検査で 広範囲も可能	一回で撮れる範囲は狭く 基本的に一か所のみ
体内に埋め込まれた 金属や機械がある方	問題なし	検査ができない場合がある
閉所恐怖症の方	筒が短いのでほぼ問題なし	ほぼ体全体が長く狭い筒に入る ので受けられないことあり
放射線被ばく	わずかだが有る	無い

撮影に必要な時間は、CTは一回当たり数秒で、MRIは数分です。したがってCTは基本的には息を止めて行いますが、MRIは止めません。しかしその数分のうちに動くと画像がぶれるのでじっとしていることが重要です。どうしてもじっとしてられない人は検査を受けられないこともあります。

表にあるように、MRIでは体内に埋め込まれた金属や機械のある方は検査を受けられないこともありますので検査前に必ず申し出てください。また、妊娠している方はいずれの検査も受けられない場合がありますので検査前に必ず申し出てください。

どちらの装置で撮影するかは調べたい病気ごとにだいたい決まっていますが、時には両方受けなければならない場合もあります。

CT検査は、主に頭部、胸腹部内臓、外傷などで多用されています

具体的な病気は、脳出血、肺炎、肺がん、肝臓がん、膵臓がん、様々ながんの転移、尿管結石、骨折などです。さらに、心臓の冠状動脈、エコノミー症候群も造影剤を注入しながらの撮影で診断可能です。最近は、不幸にも急に家などで亡くなった場合、死因を調べるためにもCT検査が行われるようになっていきます。

MRI検査は脳、脊椎、手足の関節および骨盤内の臓器などの病変に対して非常に有効です

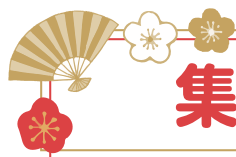
具体的な病気は、脳梗塞、脳腫瘍、脳動脈瘤、脊髄損傷、椎間板ヘルニア、膝の半月板やじん帯の損傷、卵巣腫瘍、子宮筋腫、前立腺がんなどです。



CT



MRI



集中ケア認定看護師の資格を取得して

HCU 集中ケア認定看護師 稲垣 真由美

私は、この度、集中ケア認定看護師の資格を取得し、HCUで勤務しています。集中ケア認定看護師の役割は、生命の危機状態にある患者様の生命を守るとともに、患者様及びそのご家族に対して、状況に応じた最高の安楽を提供すること、そして、急性期の時期から退院後のQOLを見据えたケアを提供することであると思っています。

HCUとは、「High Care Unit：ハイケアユニット」の頭文字をとったものであり、日本語では「高度治療室」や「準集中治療室」と訳され、ICUと一般病棟の中間に位置するとされている病棟です。当院HCUでは、受け入れている患者様の重症度の幅が広く、ICUに入室されるような集中ケアが必要な患者様も入室されます。

集中ケアを必要とする患者様は、呼吸、循環、代謝など、重篤な急性機能不全の状態では生命の危機的な状況にあります。これらの病態の悪化を防ぎ、早期回復へと導く看護ケアが必要となります。そのため、個々の患者様の状態に合わせ、タイムリーに必要な治療・看護ケアを医師など多職種と協働し実践していくことが重要となります。また、一緒にケアを行うスタッフに対しては、根拠を持った臨床推論（直感や経験知を客観的な情報と合わせてアセスメントして、看護にいたる考えかた）が行えるよう指導を行い、時には一緒に悩み、よりよいケアが実践できるように取り組みたいと考えています。

認定看護師は、いかに自ら実践を通して伝えるか！であり、私自身のアプローチによって『現場の看護が変わること！』を最も大事にし、臨床の現場で日々、実践していこうと考えていますので、よろしく願いいたします。



糖尿病看護認定看護師の資格を取得して

7B 糖尿病看護認定看護師 國村 昭子

2017年7月から2018年3月までの8か月間、福岡県の福岡県立大学看護実践教育センターで糖尿病看護認定看護師教育課程の研修を行い、今年度認定審査に合格しました。当院では2人目の糖尿病看護認定看護師となります。

糖尿病看護認定看護師は、日々生活を送りながら自分自身で血糖コントロールを行っていく糖尿病患者さんおよびご家族を支援する看護師です。

糖尿病は予備軍を含め2000万人を超える生活習慣病のひとつで、目や腎臓などの合併症のほか、最近ではがんや歯周病などといったさまざまな病気ともかかわりがあります。糖尿病という病気は患者さん自身が日常生活の中で療養行動を上手く取り入れながら生活の調整をしていかなければなりません、自覚症状に乏しく、治療を受けている人は半数にもおよばないと言われています。

これから、合併症の発症や進行を予防するために、一緒に生活を見直し、糖尿病と上手く付き合いながら、その人らしく生活を送るためのお手伝いができればと思っています。また、患者さんを支えるご家族の方が抱える悩みについても一緒に問題を解決できるよう相談に応じます。そして、医師を中心とし管理栄養士や薬剤師、理学療法士といったさまざまな職種と協力をし、「チーム医療」として患者さんをサポートしていければと考えていますので、糖尿病に関するちょっとした疑問や相談、悩み事があればいつでも気軽にご相談ください。



糖尿病看護認定看護師教育課程 修了式

皆さまからのご意見の紹介

～新しいシステム導入に関するご意見～



ご意見①

新しい受付機を導入されているが、初診・月初めで保険証の確認をする場合、受付機での受付後、8:30まで待つこととなり体調不良者にとっては苦痛が大きい。

【回答】

再来受付機は8時～稼働しており、既にご予約を頂いている方は、再来受付後、窓口で保険証を確認し、診察・検査予定時間に支障が出ないように、対応しております。

当院に初めて、もしくは、しばらく期間が空いてお越しの方は、従来と同様に、8:30～総合受付窓口にて確認、診察準備の対応をしております。ただし、体調が悪く受付前でお待ち頂くのが困難な場合は、職員にお声がけください。

再来受付機稼働開始：8時～

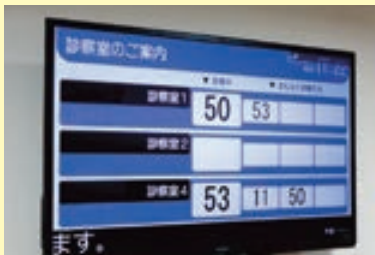
採血検査：8時～（その他検査 8:30～）

初診・しばらく期間が空いてお越しの方の受付：8:30～

午前の診察開始：9時～

ご意見②

新しいシステムになって電光掲示板にて順番が見られるようになったが、診察中の方の番号のみ表示していることが多い。待っている側としては「まもなく診察の方」の表示の方が気になる。



【回答】

診察準備が整い次第、「まもなく診察の方」が表示できるように努めます。

電光掲示板の表示が必ずしも呼び出しの順番ではないこと、また、受付番号が診察順の番号ではないことをご了解ください。

お呼び出しの際、ご連絡がとれない場合もお時間をおいてお呼び出しをさせていただきます。しばらく席を外される場合等は一言受付にお伝えください。



上記と同様のご意見を複数いただきましたので、ご紹介させていただきました。

新たなシステムが導入となり、慣れないことから、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご来院いただく方にも職員にとりましても活用できるものとしていきたいと思っております。

その他のご意見は、患者相談窓口前の掲示板でご紹介しております。

引き続き、院内に設置のご意見箱、患者相談窓口をご利用頂けますよう、お願いいたします。

安全管理センター 医療安全対策室



トリアージ研修とロジスティクス研修を開催

DMAT 委員会

先般、院内職員を対象としたトリアージ研修とロジスティクス研修の2つの研修会を開催しました。当院は災害拠点病院のため、災害発生時には即座に院内災害対策本部を立ち上げ、院内の被害状況を収集し、多数傷病者の受入れと治療をしなければなりません。そのため院内職員の上記研修を重要視して、毎月当委員会で企画を工夫して開催しています。

特にトリアージについては、災害時の医療活動で最も重要視されるものの1つです。トリアージは、診療治療の優先順位を決定する選別行為の事です。実施する職員には、多大な責任とストレスがかかります。

災害時には多数の傷病者が発生し、平時と同じような診療が出来なくなります。傷病者の人数が多く、診療する側のマンパワー・医療資機材・薬剤の量を圧倒するような場合、救命の見込みの低い方や軽症の方には治療が行えないことがあります。診療治療の必要度と優先度を決定することがトリアージの目的です。トリアージには、1次トリアージ（重症度の篩分け）と2次トリアージ（順位づけ）があり、2次トリアージは原則的に医師か看護師が行います。トリアージとその結果に基づいた診療を行う事により、防ぎえた災害死の人数を減らす事が期待されます。こうした災害時の診療方針は、災害診療に精通した医療機関であればマニュアル化されており、全国的に導入されています。

更に今年度より、衛星携帯電話とトランシーバーの使用方法和クロノロジーの書き方について、院内のコメディカルを対象にロジスティクス研修を実施しました。クロノロジーとは、情報を時系列に並べたものことで、情報を時系列に沿ってホワイトボードなどに書き出し、災害情報を共有し整理する手法です。災害が発生すると、災害対策本部がたてられ災害対応を行っていきます。その際こうしたクロノロジーを使った情報記録や共有が、災害対応の一助となります。

一方災害が発生すると交通や通信が寸断され、被災地の情報が被災地内外にも伝わりにくくなり、救助や支援活動の妨げとなります。そうした状況下でも、衛星電話とトランシーバーは、被災地内での連絡手段として、また被災地内と被災地外との連絡手段として力を発揮します。衛星電話とトランシーバーを活用できることは、災害対応に必要な能力です。それぞれの使用方法には、知識とコツが必要ですので、平時から訓練して使用方法に慣れておくことは重要です。これらの連絡手段を使って、通常の電話や通信手段が使えないような状況下でも、被災状況や傷病者情報の共有・応援の要請・支援物資の依頼などが可能となります。

これらの研修内容は、平時の業務とは別物なので、一度の研修では災害時にうまくこなせるか不安があるとの声を受講者から頂きました。今後も定期的な開催とブラッシュアップ講習を企画していきたいと思っております。



模擬患者をトリアージ



カードトリアージ

クロノロジー作成中



傷病者一覧リスト作成